CSR

コミュニケーションBOOK VOL.3

～ 一 歩、踏 み 出 す ～

大阪商工信用金庫

Shoko

新入職員が多賀理事長に突撃インタビュー！

新入職員A：脱炭素に取り組もうと思ったきっかけをお聞かせください。

理事長：近年の異常気象を受け、子や孫の世代にこの環境を残してはいけない。今の社会を支えている私たちの代で温暖化を改善しなければいけないと思っていたところ、2年前、菅元首相が国会の所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル」を宣言された。我々信用金庫としても積極的に温暖化対策に取り組むことが、経済社会の変革をもたらし、成長につながっていくと確信しました。そこで基礎的な知識や信用金庫としてどの様な取り組みが必要なのかを理解するためにプロジェクトチームを立ち上げました。今や大企業だけでなく、中小企業にも脱炭素への対応が求められています。当金庫としてもお客様の脱炭素経営に向けた取り組みを今まで以上に応援していこうと思っています。

新入職員B：地域金融機関として今後力を入れていきたい取り組みをお聞かせください。

理事長：当金庫の営業地盤内においても、様々な社会的課題が明らかとなっています。例えば労働力人口の減少が見込まれており、企業にとって、いかに従業員を確保していくのか、また気候変動による温暖化が進み、従来までの生活環境が失われる可能性がある等が予測されています。このような課題に対し、新技術を開発しているスタートアップ企業を様々な施策によって支援し、課題が解決されてゆくことを期待しています。また、当金庫の従来からの取引先とのシナジー効果も期待されます。結果的に、当金庫が支援したスタートアップ企業が大きく成長することで、大阪経済の礎となることを願っています。

新入職員C：大阪・関西万博に当金庫の出展が認定されましたが、万博にかける思いや実現したいことはありますか？

理事長：大阪・関西万博に直接かかわることは光栄なことです。大阪ヘルスケアパビリオンに当金庫が推薦するスタートアップ企業に出展いただくわけですが、脱炭素に資する技術の内容を広く公開し、来場される方々に脱炭素へ向けた社会変革の必要性を感じてほしいと思っています。加えて、技術内容に興味をもつ様々な団体・組織・企業には、当金庫と共にスタートアップ企業の更なる成長を支援、サポートしてくれるきっかけとしてほしいと思っています。その結果、当金庫が応援するスタートアップ企業が成長し、地元大阪の発展につながることを願っています。

新入職員A：これからの大阪商工信用金庫の将来像についてお聞かせください。

理事長：当金庫の存在意義は地元大阪に貢献、還元することを第一目標としています。さらに時代のニーズに合わせたデジタル化への対応も取り入れ、現代に即したサービスの実現と業務効率を上げることにより職員の働きやすい環境も作っていきます。そして、SDGsや脱炭素社会実現に向けた様々な取り組みや支援を通じて地域金融機関としての役割をこれまで以上に発揮し、お客様、地域とともに持続可能な社会づくりに参画していきたいと思っています。

大阪商工信用金庫は、大阪・関西万博を応援しています

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
DESIGNING FUTURE SOCIETY FOR OUR LIVES

サブテーマ

Saving Lives（いのちを救う）
Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト

－People's Living Lab－ 未来社会の実験場

1．展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
2．万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。
3．人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場に。

大阪・関西万博「ＴＥＡＭ ＥＸＰＯ２０２５」プログラムに参画

大阪商工信用金庫は、大阪・関西万博「ＴＥＡＭ ＥＸＰＯ２０２５」プログラムの共創チャレンジに参画しました。共創チャレンジとは、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するため、自らが主体となって未来に向けて行動をするチーム活動のことです。

TEAM EXPO 2025 | Shoko

共創チャレンジ名称
「社会貢献と利益の両立」への挑戦

大阪ヘルスケアパビリオン「展示・出展ゾーン」の「リボーンチャレンジ」に認定されました

●大阪パビリオン出展テーマ 「REBORN」

このテーマには
“「人」は生まれ変われる”、
“新たな一歩を踏み出す”と
いう意味が込められています。

※「2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会」

●認定された事業企画について

1．リボーンチャレンジ名称

Rethink まちからはじまる、脱炭素への取り組み
まちと社会、これからのくらし

2．事業概要

持続可能な社会の実現に向けた、最重要事項のひとつである“脱炭素”にテーマを絞ることで、来場者にも分かりやすく関心高く、参加支援企業の多様な取り組みに触れていただくことをめざします。大阪の中小企業・スタートアップにおける、脱炭素事業への参加支援を行いながら、その土壌となる大阪のまちとしての魅力や活気を感じてもらえるような構造を伝えます。

※展示イメージ図

※中小企業・スタートアップ企業の募集については、2023年1月以降に開始する予定です。詳細が決まり次第公表いたします。

大阪商工信用金庫

脱炭素社会に向けた取り組み

環境方針

大阪商工信用金庫　環境方針

持続可能な社会
今を生きる大人の責任として住み良い自然環境を子供や孫たち世代に残す責任があると考えます。地球環境にやさしい行動を心がけ、社会貢献と利益の両立を実現します。

脱炭素社会の実現
自金庫による環境負荷低減への取組みと、お客さまへの脱炭素経営に対するコンサルティング・金融支援を積極的に取組みます。

環境負荷低減への取組み
再生可能エネルギー等の利用、省エネ・省資源を推進し、環境負荷低減に努めます。

環境改善への貢献
環境に配慮した商品・サービスの開発を通じてお客様を支援し、共に地域社会の環境改善に貢献します。

ガバナンス・マネジメント体制
環境保全に向けた着実な取組みを実施するため、健全なガバナンス体制を確保します。

ステークホルダー・エンゲージメント
環境方針を当金庫内に周知するとともに、広く多様なステークホルダー・エンゲージメント（建設的対話）を通して、連携や協働を進めます。

職員の意識向上と社会貢献
日常業務を通じて職員の環境保全に対する意識向上を図るとともに持続可能な社会の実現に貢献します。

法令遵守
環境に関する法令・条例、地域ルールを遵守します。

制定：令和４年７月８日

大阪商工信用金庫
理事長　多賀　隆一

令和４年７月８日に

大阪商工信用金庫の環境方針を制定

しました。脱炭素社会実現に向けて取り組んでまいります。

JCI

気候変動対策に積極的に取り組む
企業や自治体、NGOなどの
情報発信や意見交換を強化するために設立された

JAPAN CLIMATE INITIATIVE

「気候変動イニシアティブ(Japan Climate Initiative)」

に、大阪商工信用金庫は参加いたします。

再エネ

再生可能エネルギー100％電力の使用を開始しました

再エネ100宣言 RE Action

大阪商工信用金庫は

2021年6月1日に「再エネ100宣言 RE Action」

への参加を表明し、使用電力を100％再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示しております。現在、生野支店・加美支店・長田支店の使用電力を実質再生可能エネルギー100％電力に切り替えております。今後も順次切替を実施し、2050年度までに使用電力100％の再生可能エネルギー化を目標に進めてまいります。

生野支店

加美支店

長田支店

脱炭素経営を
サポートいたします！

三井住友海上火災保険株式会社と2021年11月に「SDGs・脱炭素（カーボンニュートラル）に関する包括連携協定」を締結しました。相互に連携してお取引先に対するSDGs・脱炭素の取り組みに関する支援を行うことにより、お客様の持続的成長と地域経済の活性化を図ります。

●よろず相談

脱炭素に興味がある、取り組みたいというお客様に対して、脱炭素関連のあらゆる相談に応じます。

【ご相談例】
- SDGs経営の事例が知りたい
- 自社のCO_2排出量を知りたい
- 再エネ調達などCO_2削減活動を行いたい
- 国際的なイニシアチブに参画したい
- 自社の脱炭素に係るリスクを把握したい

など

●CO_2排出量／削減量簡易算定

- お客様からいただいたエネルギーに関する使用量のデータをもとに、エネルギー起源のCO_2排出量を算定します。
- 算定されたCO_2排出量をもとに、カーボンニュートラル達成のために必要な削減量を算定し、レポートにまとめてご提出いたします。

お客様インタビュー

帝国イオン株式会社

代表取締役社長　**中村　孝司**

Q. 自社のCO_2排出量を算定しようと思ったきっかけは？

A. 地球規模でCO_2を含めた温室効果ガスの削減が求められるようになったことを受け、我々のような中小企業でも脱炭素対策は必要になってくると思っていました。
今回、大阪商工信金よりCO_2排出量算定のご提案をいただき、良い機会だと考え利用しました。数値化することで、削減へのスタートラインに立つことができたので、これからは、削減目標を具体的に立て、脱炭素社会実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

Q. 算定にあたって、ガスや電気、水道などの使用量数値化は大変でしたか？

A. 当社では、数年前から経費削減活動の一環として、使用量の数値化に取り組んできました。具体的には、各部門に水道メーターを取り付けて使用量を数値化しています。今までの蓄積したデータを提出するだけだったので、手間はほとんどありませんでした。使用量の削減は、「10%節約をしなさい」と号令を掛けても長く続くことはありません。それよりも、みんなで話合い節約する方法を決めて、節約の変化点をつくり数カ月後に「削減効果が10%削減出来ました」という成果が出た時、その活動は自然と続く様に感じています。CO_2排出量削減も、同様に取り組んでいけたらいいなと思っています。

Q. 持続可能な社会を実現するために取り組んでいることはありますか？

A. 当社は、大阪大学工学研究科 原 圭史郎教授、並びに倉敷 哲生教授が進めているフューチャー・デザインを社員の研修に取入れています。
アメリカ北部・カナダ周辺のイロコイ部族の意思決定の仕組みから重要な意思決定をするときは、七世代後の人々になりきって考えていたそうです。フューチャー・デザインとは、この考え方を実践した学術研究で、将来世代から現在を考察することで持続可能な意思決定を実現するための社会の仕組みをデザインする手法だそうです。
当社はこの研修で、自分達がいまやっている企業活動は、「未来の幸せに役立っているのか？」を考えています。20年後の未来人に自分達がなりきって考え、未来に向けてやらなければならないことを決め、その夢の実現に向かってみんなで取組んでいます。

Shokoマルシェ

～in もりのみやキューズモールBASE～

2022.10.22 sat 11:00~15:00

今回ももずやんと
モリスペクターが
来てくれました！

大阪府広報担当
副知事もずやん

もりのみやキューズモールBASE
マスコットキャラクター　モリスペクター

「大阪商工信金社会貢献賞」受賞団体等への継続支援及び地元大阪を盛り上げるため【Shokoマルシェ～in もりのみやキューズモールBASE～】を開催しました。
マルシェ開催は3月に次いで2回目となり、13団体が出店しました。

開会式

夢源風人（むげんかじぴとぅ）によるよさこい！
力強さと一糸乱れぬ踊りに圧倒されました。

大阪府立城東工科高校吹奏楽部による演奏会！流行りの曲から誰もが知る曲まで、多くの人が楽しい音色に足を止め聴き惚れていました。

就労支援をされている団体の皆さんが丹精込めて手作りしたお菓子や雑貨、ワークショップが並び、ステージではよさこいの力強い踊りと吹奏楽の心地よい音色が流れるなど活気あふれるマルシェとなりました。

・ポップコーン
・マグネット　・スワッグ

特定非営利活動法人
たんぽぽの丘

雑　貨

公益財団法人
日本アニマルトラスト

・焼き菓子
・雑貨

こさえたん

・シフォンケーキ
・クロワッサン
・ラングドシャ

大阪産
プロスパー

・ケーキ　・ジャム
・サイダー

大阪産
ベリープラント
喜平

・団子　・アイス
・ドリンク

大阪産
和琴きっちん

・日本酒『山鶴』
・酒粕ジェラート

株式会社中本酒造店

・焼き菓子
・雑貨

あゆみ工房

・医療ケアグッズ
・雑貨

一般社団法人
チャーミングケア

・クラフトビール
・焼き菓子

株式会社シクロ

・メーシーキンパ　・蜜芋プリン
・シナモンロール　・塩パン

MERCY
Vegan Factory

・果物
・ワークショップ（魚釣り）

ネクストステージ
エイブル

・子供向け
ワークショップ

大阪府(協力)

ボランティアも頑張りました！

子どもから大人まで、多くの方にご来場いただきました！

商工SDGs月間

大阪商工信用金庫の職員がアイデアを出し合い、SDGsの17のゴールに向けた目標を職員全員が１か月間取組んでいく活動です。

取組内容紹介

本　部

毎週月・木曜日の朝に職員全員でラジオ体操を実施するとともに、空調を原則27℃設定（8月実施）としました。

3 すべての人に健康と福祉を　13 気候変動に具体的な対策を

阿倍野支店

阿倍野区内にある福祉関係機関や施設の案内パンフレット及び成年後見制度・成年後見支援センター案内パンフレットを店頭に掲示＆配布。

3 すべての人に健康と福祉を

東成支店

環境にやさしい洗剤をお客様に配布するとともに、営業店の食堂やお手洗いに節水ポスターを掲示しました。

6 安全な水とトイレを世界中に

加美支店

- 週に一回店周清掃を実施
- ペットボトルキャップを集め、プラごみから作る燃料で船を走らせるイベントに寄付

11 住み続けられるまちづくりを

八尾南支店

店頭のテレビを消し、省エネアイデアをお客様から集め掲載しました。活動期間終了後にアイデアをまとめたチラシを作成し、配布しました。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

日本橋支店

毎週水曜日の朝に職員全員でラジオ体操を実施しました。朝から体を動かすことで自律神経が整い、代謝もアップ！時短職員は子どもと一緒にラジオ体操をしました！

3 すべての人に健康と福祉を

吉田支店

- 空調を原則27℃設定（8月実施）
- マイカップを利用することで、紙コップ使用量を99%削減しました
- 株式会社住まい工房大栄の防災心得動画を店頭で放映するとともにパンフレットを配布

13 気候変動に具体的な対策を

堺支店

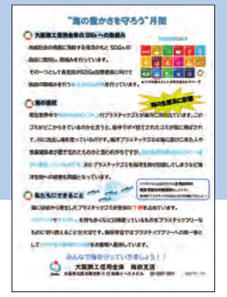
- 空調を原則27℃設定（8月実施）
- パソコンや電灯等、使用しないときはこまめに電源を切る

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

梅田支店

「バイオマス素材のごみ袋」と「脱！プラスチック啓発チラシ」をお客様に配布。

14 海の豊かさを守ろう



西梅田支店

週に一回、店周清掃を実施しました。

11 住み続けられるまちづくりを

皆さまの活動を持続させるチカラになりたい。

第16回「大阪商工信金社会貢献賞」

審査員の厳選なる審査により、下記５団体が受賞団体として選ばれました。
なお、当金庫の役職員、OB・OGによる募金活動「商工さくら基金」より「さくら賞」を設け、応募団体の中から職員の審査により第13回「さくら賞」受賞団体を１団体選定いたしました。

第1部｜地域貢献の部

特定非営利活動法人 女性サポート大阪

365日24時間、代表自ら依頼があれば現場に駆け付けDV被害者の保護を行っている。ペットは家族と考えている人が多い現代において、DV被害により避難したくても大切な家族（ペット）を置いて逃げることが出来ない人の為、ペット同伴可シェルターを開設する。長年DV被害者に寄り添い続け、行政・警察などの信頼が厚い点からも貢献度は高く評価される。

一般社団法人 タウンスペースWAKWAK

「誰一人取り残さないまち」の仕組みづくりをテーマに各団体を結ぶハブとなる活動を産学官連携で長年行っている。特に子どもたちの貧困等に対し、学校と連携し課題解決に尽力している。子どもたちが社会で直面する課題を解決するための思考力や判断力、表現力、社会参画力を育むための教育カリキュラムを学校と地域の協働により構築する等、全国的なモデル事業となり得る点からも高く評価される。

特定非営利活動法人 寝屋川市民たすけあいの会

地域の困りごとをみんなで解決していくことから始まった団体。「お互い様」の気持ちを大切に、支援する側・支援される側の垣根をなくすことで、「自分は相手の為、相手は自分の為」に思いやる風土の醸成に貢献している。貧困問題・要支援問題を抱えた障がい者等が多く暮らす地域に密着した活動は、寝屋川市になくてはならず、今後ますますの発展と他エリアへの波及が期待される。

第2部｜ソーシャルビジネスの部

株式会社 木幡計器製作所

「ものづくりの街・大正区」において、創業113年を迎える老舗計器メーカーである。
新型コロナウイルス蔓延初期に、医療機関からの緊急依頼で感染防止器具を他社と協力し、わずか25時間で造り上げた。このことを皮切りに、大正区のものづくり企業をまとめ上げ、医工福連携を加速させ、少子高齢化及び企業移転による衰退にストップをかけることで、大正区の発展に貢献している点が高く評価される。

株式会社 シクロ

日雇労働者や路上生活者等が多いことに加え、高齢化が進んでいる社会課題の多い地域である西成区において、介護事業を行っている。社会課題解決に向けた新しいソーシャルビジネスを次々と展開し、地域住民の就労意欲向上と障がい者支援に大きく貢献している。新規参入の強みである「業界を知らないこと」を活かし、既成概念に捉われないビジネスモデルは、今後の成長も大いに期待される。

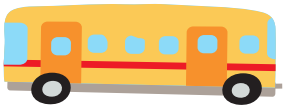
第13回「さくら賞」

小曽根小学校区地域自治協議会

歴史ある街「小曽根」において、古くから続く伝統や歴史を大切にしつつ、多様性に富む地域づくりを行っている。また、防災にも力を入れており、当団体の活動により地域住民の防災意識は他地域に比べて非常に高い。
YouTubeを利用した「情報の見える化」にも積極的に取り組むことで、若者から高齢者まで世代を超えて参加する風土づくりが出来ている点が高く評価される。

信用金庫の日

今年も「SDGs・脱炭素」をテーマに活動を行いました。ご来店いただいたお客様やご訪問先にSDGsホイールのようにカラフルな4色の花の種をプレゼントしました。また、当日は車やバイクの使用を控え、公共交通機関や自転車、徒歩等で移動することにより、排気ガスの排出を抑える活動を行いました。



ウクライナにおける人道的支援活動へ寄付

ロシアによるウクライナへの軍事行動により、多くのウクライナの人々が避難を強いられ、過去にない人道危機に瀕していることを受け、当金庫ではウクライナに対する人道的支援活動のための支援金を職員から寄せられた募金額と商工さくら基金を合わせた金額と同額を当金庫から拠出するマッチングギフトとして令和4年4月20日にUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じて寄付いたしました。

JAPAN FOR UNHCR 難民を守る。難民を支える。国連UNHCR協会

感謝状

大阪商工信用金庫 様

日頃よりUNHCRの活動へ温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
皆様からの貴重なご寄付は、紛争や迫害等により避難を強いられた世界の難民と国内避難民を守るUNHCRの活動のために、大切に活用させていただきます。

UNHCRの人道援助活動は、家を追われてきた人々の緊急援助として現在最優先の支援先となるウクライナおよびヨーロッパ地域での活動をはじめ、シェルター（仮設住居）支援、女性や子どもなど最も弱い立場にある人々の保護、教育、保健医療、自立生計支援など多岐にわたります。活動地域はアフリカや中東、アジア、ヨーロッパから中南米まで約130か国に及びます。戦闘や不安定な社会情勢等のため、危険と隣り合わせで過酷な現場も少なくありませんが、UNHCRは「家を追われ助けを必要とする人々のそばにとどまり、命を守る」という原則と使命感のもと、難民の方々に寄り添い、今日も活動に力を尽くしています。
皆様の温かいご支援が、そうしたUNHCRの一つひとつの活動を可能にし、かけがえのない命を救ってきました。ここに改めて、皆様からの貴重なご支援に、心からの敬意と深い感謝の思いをお伝えしたく存じます。

どうぞこれからもUNHCRの援助活動にお力添えをいただき、私たちと一緒に難民の命と尊厳を支えてくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会
事務局長
川合雅幸

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会
〒107-0062 東京都港区南青山8-10-11 ウェスレーセンター3F
Tel 0120-540-732 www.japanforunhcr.org

GREEN PRINTING JFPI P-B10114
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

大阪商工信用金庫 経営企画部CSR推進室
〒541-0053 大阪市中央区本町２丁目２番８号　TEL (06) 6267-2865